

主催 公益財団法人 腸内細菌学会

第30回 腸内細菌学会学術集会

発表演題募集・プログラム

メインテーマ

マイクロバイオーム研究の未来地図

—腸内細菌とともに拓く次世代医療—

開催日

2026年
6月9^火 » 10^水

会場

タワーホール船堀
東京都江戸川区船堀 4-1-1

大会長

長岡 正人
(株式会社ヤクルト本社中央研究所 所長)

早期参加費

3/2 ~ 5/20 会員 9,000 円 一般 13,000 円 学生会員 1,000 円 学生(一般) 2,000 円

通常参加費

5/21 ~ 6/10 会員 11,000 円 一般 15,000 円 学生会員 1,500 円 学生(一般) 2,500 円

腸内細菌学会ホームページ <https://bifidus-fund.jp/>



一般演題（若手ワークショップ、ワークショップ）申込要領

一般演題は、若手ワークショップ、ワークショップ形式での発表となります。若手ワークショップでは、口頭とポスターでの発表を行います。ワークショップは、原則、口頭発表ですが、演題申込が多数の場合は、ポスター発表に変更をお願いすることがあります。あらかじめご了承ください。

腸内細菌をはじめとする腸内微生物の生態・分類・機能、腸管免疫、食品微生物、プロバイオティクス、プレバイオティクスなどに関する研究発表を募集しています。下記の要項に従ってお申し込みください（大会のメインテーマと関連がなくても構いません）。非会員の方でも発表は可能です。

本大会の一般演題は、大会1日目午前中に【若手ワークショップ】（8分程度の口頭発表〔質疑応答含む〕）と、【ワークショップ】（12分程度の口頭発表〔質疑応答含む〕）を2つの会場で並行して行う予定です。若手ワークショップは口頭発表に加え同日午後のポスター発表もあり、若手研究者による発表や、シーズあるいは萌芽的な研究の発表を歓迎致します。なお、若手ワークショップの中から本学会選考委員によって優秀な発表と評価された発表者に対して「最優秀発表賞」（表彰状および副賞）が贈られます。

① 申込方法　抄録用原稿はメールでお送りください。メール本文には、希望する発表形式（若手ワークショップまたはワークショップ）がわかるように必ず明記してください。事務局にて受信後、一両日中に受付完了のメールを返信いたします。

② 作成要領

!　抄録用原稿では、会社名、製品名の使用は控え、成分名や一般名で記載してください。

若手ワークショップ

- ・ 2026年6月9日現在で30歳以下または学生の方を対象とします。
- ・ 抄録用原稿は、第30回腸内細菌学会学術集会のホームページから抄録用フォーマット（Wordファイル）をダウンロードして作成してください。
- ・ 抄録の長さはA4 1枚以内とし、上部に演題名・英文タイトル・演者（○をつける）・共同研究者の氏名および所属を明記してください。
- ・ 本文の長さは和文1,000文字または英文550ワード内とし、「目的、方法、結果、考察」の順で記入してください。

和文タイトル
英文Title

○腸内太郎¹、腸内花子²
¹腸内大学研究所、²株式会社 腸内細菌

【目的】…
【方法】…
【結果】…
【考察】…

2026年1月31日(土)まで

- ・締切：2026年1月31日(土)必着にて下記事務局までお送りください。

ワークショップ

- ・抄録用原稿は、第30回腸内細菌学会学術集会のホームページから抄録用フォーマット（Wordファイル）をダウンロードして作成してください。
- ・抄録の長さはA4 1枚以内とし、上部に演題名・英文タイトル・演者（○をつける）・共同研究者の氏名および所属を明記してください。
- ・本文の長さは和文1,000文字、または英文550ワード内とし、「目的、方法、結果、考察」の順で記入してください。
- ・締切：2026年1月31日(土)必着にて下記事務局までお送りください。

③発表時間

若手ワークショップ 6月9日(火) 小ホール(予定)

大会第1日目午前中のセッションでの口頭発表（5分発表+3分質疑応答）と同日午後にその講演のポスター発表（60分程度）になります。

※同日に行われる情報交換会にて、最優秀発表賞の表彰を行います。

ワークショップ 6月9日(火) 大ホール(予定)

大会第1日目午前と午後（または2日目午後）のセッションでの口頭発表（9分発表+3分質疑応答）となります。

※演題申込が多数の場合は、ポスター発表に変更をお願いすることがあります。あらかじめご了承ください。

※発表時間は変更になる可能性がございますのでご了承ください。

④申込先および事務連絡先

公益財団法人 腸内細菌学会事務局

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-24-12

TEL 03-5319-2669 FAX 03-5978-4068

E-Mail アドレス jbf@ipec-pub.co.jp

ホームページ <https://bifidus-fund.jp/>

⑤その他

発表方法や時間などは採択後に発表者にご連絡します。なお、演題の採択は学術委員会の審査を経て、大会長が判断いたしますのでご了承ください。

また、発表者の皆様には、ご発表に際し「利益相反(COI)」に関する開示をお願いいたします。発表スライドまたはポスター中にCOIの有無について公表してください。企業に所属の場合は、別企業とCOI状態にある場合に開示してください。

当財団の「利益相反(COI)」開示方法については、「公益財団法人腸内細菌学会ホームページ」→「当財団について」→「利益相反(COI)について」をご参照ください。

[\(https://bifidus-fund.jp/aboutcenter/pdf/about_coi.pdf\)](https://bifidus-fund.jp/aboutcenter/pdf/about_coi.pdf)

学会スケジュール (予定)

6月9日 (火)

第1日

9:55～10:00 開会の挨拶

大会長 長岡 正人 (株式会社ヤクルト本社中央研究所 所長)

10:00～12:00 若手ワークショップ 口頭発表 (小ホール)

ワークショップ 口頭発表 (大ホール)

※ワークショップの申込が多数の場合は、一部9日 (火) 午後 (または2日目午後) にを行う予定です。

(12:00～13:30 昼食休憩)

12:15～13:15 ランチョンセミナー (予定)

13:30～14:50 腸内細菌学会学術集会 30周年記念講演 (大ホール)

特別講演 1

神谷 茂 (杏林大学)

「腸内細菌学会 30 年の歩みとこれから：アカデミアの視点から」

特別講演 2

梅崎 良則 (腸内細菌学会 前総務主幹)

「腸内細菌学会 30 年の歩みとこれから：企業の視点から
—アカデミアとの出会い—」

15:00～15:10 研究奨励賞授賞式 (大ホール)

15:10～15:50 受賞講演 1・受賞講演 2

15:50～16:50 海外特別講演 (大ホール)

Clara Belzer (Wageningen University & Research, Netherlands)

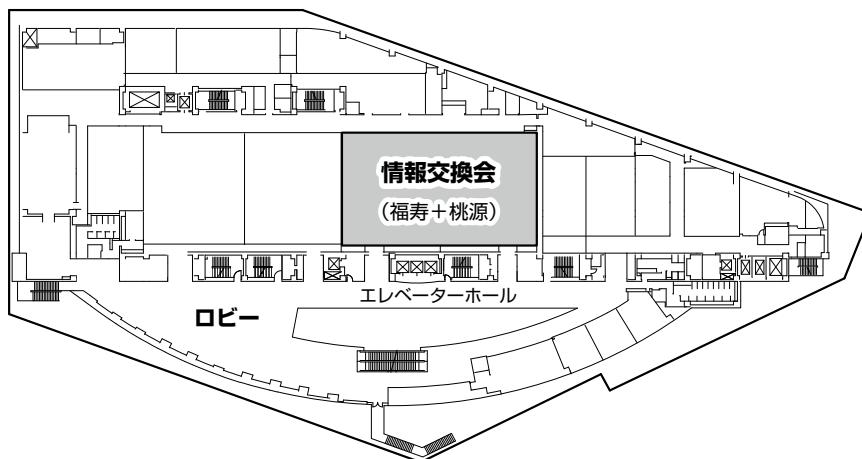
「A Sweet Deal: Microbiome Glycan Nexus」

17:00～18:00 **ポスター発表** (1F 展示ホール)

午前の部に行ったショートプレゼンテーションのポスターを用いた質疑応答タイム

18:00～19:30 **情報交換会** (2F 福寿・桃源) (予定)

皆様奮ってご参加ください。



第1日
6月9日
(火)

市民公開講座 『腸内細菌と運動』

13:30～15:30 (小ホール) (オンデマンド配信も予定)

青柳 幸利 (東京都健康長寿医療センター研究所)

「長生き歩きと腸活の効果について
—中之条研究 25 年の成果—」

横山 幸浩 (名古屋大学)

「手術前には「筋肉」と「腸」を鍛えましょう！：
プレハビリテーションとシンバイオティクスの有用性」

司会：高橋 恭子 (日本大学)

学会スケジュール (予定)

6月10日 (水)

第2日

9:30～12:00 シンポジウム1 (大ホール)

『腸内細菌叢のダイナミクス：発達・加齢と健康への影響を探る』

1. 河本 新平 (東北大学)

「細胞老化を介した腸内細菌叢による老化促進機構」

2. 中山 二郎 (九州大学)

「アジアンワイドに見る小児期の食と腸内細菌叢と健康の関連性」

3. 明和 政子 (京都大学)

「腸—脳軸からみたヒト発達における親子共制御のダイナミクス」

4. 天本 隆太 (株式会社ヤクルト本社中央研究所)

「高齢者の腸内細菌叢と、それに影響を及ぼす諸因子」

5. 宮本 潤基 (東京農工大学)

「加齢依存的な腸内細菌代謝物と生体エネルギー代謝制御」

(12:00～13:00 昼食休憩)

13:00～15:30 シンポジウム2 (大ホール)

『マイクロバイオームを活用した疾患制御とウェルビーイング創出』

1. 小山 正平 (国立がん研究センター研究所)

「マイクロバイオームを活用したがん免疫微小環境制御の可能性」

2. 北本 祥 (大阪大学 免疫学フロンティア研究センター)

「口腸連関から紐解く癌原性細菌の体内動態と制御への展望」

3. 松岡 悠美 (大阪大学 免疫学フロンティア研究センター)

「微生物を利用したアトピー性皮膚炎の予防、治療の可能性について」

4. 柳原 格 (大阪母子医療センター)

「周産期医療分野における腔内細菌叢の重要性」

5. 石川 大 (順天堂大学)

「腸内細菌療法の現状と展開」

15:30～15:40 閉会の辞

投稿のお願い

本学会でのご発表の内容を和文誌『腸内細菌学雑誌』または
腸内細菌学会・日本乳酸菌学会・日本食品免疫学会の
合同英文誌『Bioscience of Microbiota, Food and Health』へ
ご投稿ください。原稿の種類は、原著・総説・ノート何れでも
構いません。BMFH誌は2018年3月にSCIE (Science Citation
Index Expanded)への登載が決定しました。これにより
BMFH誌にImpact Factorが付くこととなりました。

2024年のImpact Factorは2.9に決まりました。



BMFH Journal Impact Factor 2.9

交通アクセス・マップ

タワーホール船堀

タワーホール船堀までのアクセス (東京都江戸川区船堀 4-1-1)

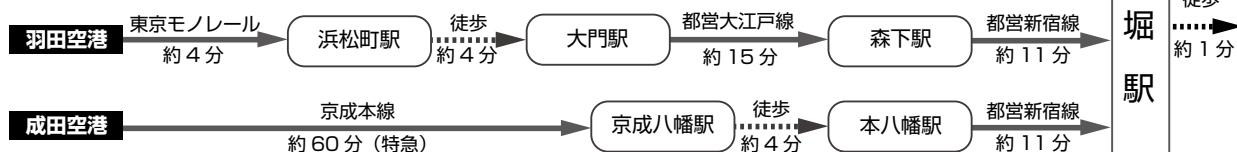
都営新宿線【船堀駅】より徒歩 約1分

電車をご利用の場合



タワー
ホール
船堀

空港から電車をご利用の場合



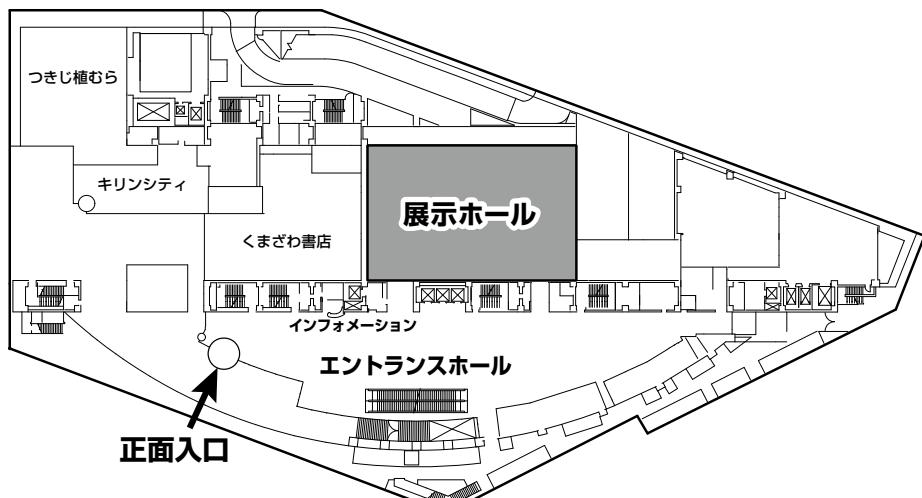
空港からバスをご利用の場合



会場案内図

1F

- ・ポスター発表
- ・企業展示
- ・製品提供
- ・インターネットコーナー



5F

- ・講演会場
- ・シンポジウム
- ・市民公開講座
- ・受付

